

お薬手帳本当に活用できていますか？ 「検査値シートに続くお薬手帳の取り組み」

株式会社アルファーム

○上野 雅広 根本 洋司 佐藤 博文 吉田 祐子 牧島 義明
丹羽 宏実 橋本 恵子 小澤 由恵 吉田 幸正

目的

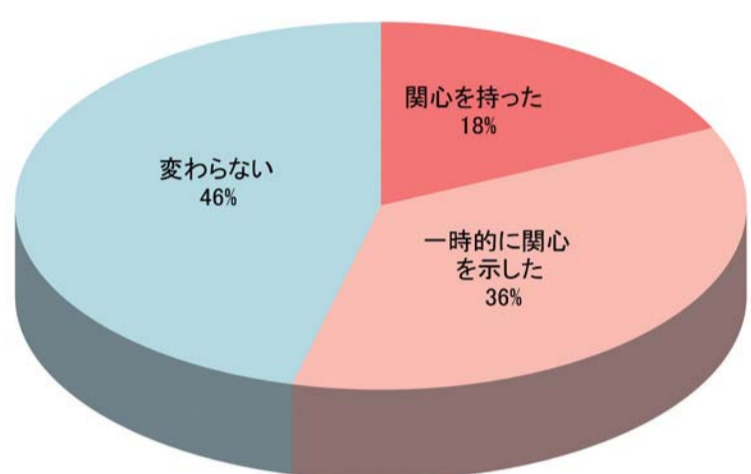
医薬分業によって、お薬手帳が普及されてきた。しかしながら現状では患者、医師、薬剤師それぞれが有効に利用できているだろうか。お薬手帳は本来、情報共有のツールとして誕生したものである。そこで、お薬手帳本来のメリットである、情報共有機能を最大限利用するための方法を考察してみた。

方法

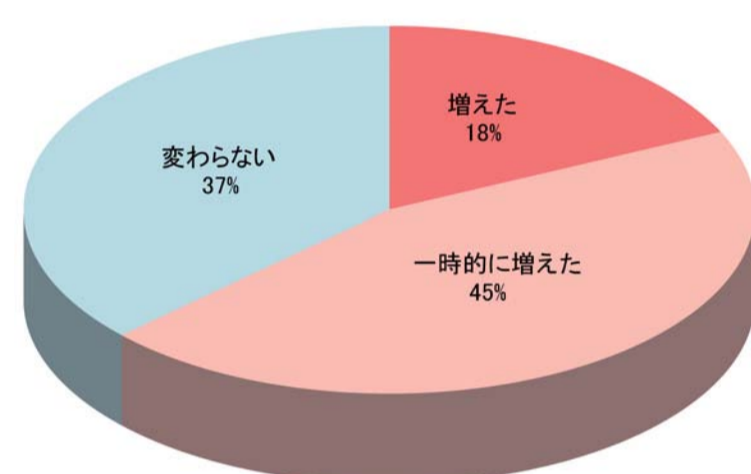
服薬指導時に日頃問題となっている、疾病禁忌（緑内障、前立腺肥大症）、副作用、残薬確認、ワンポイントアドバイスなどのシートを作成し、該当する患者さんの手帳に貼りつける。全店舗の薬剤師にアンケートを実施し結果を集計する。



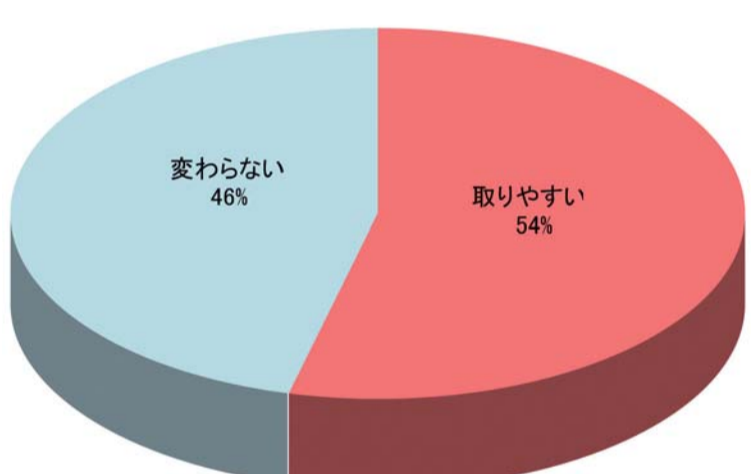
患者さんの手帳への関心



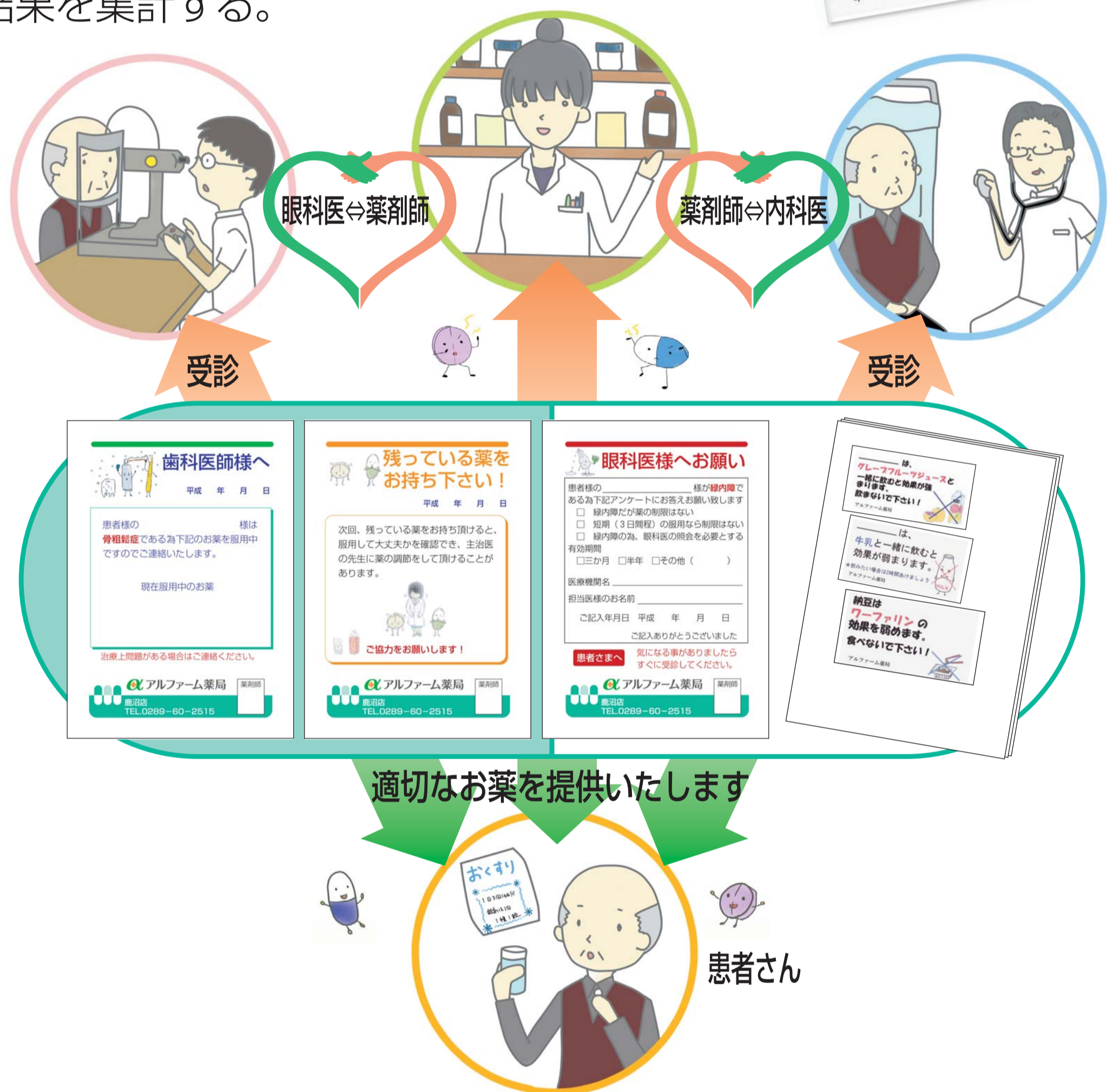
手帳の持参について



コミュニケーションについて



社内アンケートより



結果

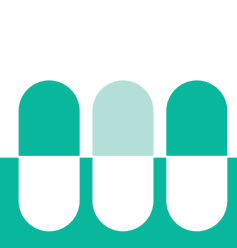
- 患者さんがお薬手帳に対して、副作用など以前より関心をもつようになった
- 手帳を持参する患者さんの増加傾向がみられた
- 患者さんとのコミュニケーションがアップした
- 医師との連携を深めるきっかけになった
(緑内障シートの利用をきっかけに近隣の眼科医とのつながりができた)
- 残薬の調整、併用薬の確認に役立った
- 高齢の方などには解かりにくかったようで、シートを渡しても未記入、未回収の方がいた

考察

シートに絵を利用するなど視覚に訴えることにより患者さんの薬に対する意識は向上することがわかった。よりわかりやすく覚えやすいシートを作成することで、更にお薬手帳の有効利用が出来ると思われる。又、お薬手帳を介して処方医以外の患者さんのかかりつけ医とのつながりが生まれ、今までできなかった疾病禁忌薬処方時の相談などができるようになり院外処方せんへのチェックに大いに役立つと感じた。

課題

わかりやすいシート（特に高齢者などに）をいかに作成するか？デザイン、文字の大きさなど、今後も工夫が必要である。緑内障シートなどは医師の協力が必要なので、医師の理解を得る為のアプローチの仕方などを考えていく必要がある。



アルファーム薬局

皆様のご意見を頂戴して、これからも改善していきたいと思っております。ご意見、ご感想をいただける方は下記までご連絡をお願い致します。

【連絡先】 アルファーム薬局 鹿沼店

〒322-0068 栃木県鹿沼市今宮町1623-2 TEL 0289-60-2515 FAX 0289-63-3117
E-mail : kanuma@alpharm.co.jp URL : http://www.alpharm.co.jp